

## 前沢中学校

生徒数 351 人  
所在地 前沢字久田 31 番地 ☎ 3005



前沢中学校は、昭和 38 年に前沢、白山、古城、生母の 4 中学校を統合して創立されました。前校舎の老朽化に伴い、平成 14 年 10 月に現在の場所に移転し、新築された校舎で生活を送っています。

前沢中学校は、部活動が盛んです。地区中総体に向けて重点的に取り組む期間には、ロッキーのテーマとともに生徒会執行部からのメッセージが流れ、全校生徒が速やかに部活動場所へ移動し取り組みが開始されます。高い目標を持ち、その実現に向けてどの部も熱心に頑張っています。

また、生徒会活動も盛んです。「正しい心を育み、

活気あふれる学校」を目指した「三正運動」を伝統として受け継ぎ取り組んでいます。「三正運動」とは、「正しいあいさつ」「正しい服装」「正しい歩行」を表します。特に「正しいあいさつ」は、生徒会執行部により具体的な基準を示すなど、全校で大切にして取り組んでいます。朝と帰りの職員室前でのあいさつ、廊下での教職員や来校者に対するあいさつなど、一人一人が責任を持って本気で取り組んでいる様子が見られます。来校者からも高い評価を頂くことが多くあります。その他に、専門委員会活動も盛んです。学習委員会の学習クラスマッチ、生活委員会の生活 1UP 運動など、それぞれが核となる取り組みを持ち、積極的に全校生徒に働きかけ、その推進を目指しています。

前沢地域の唯一の中学校として、地域の皆さんの期待に添えられるようこれからも精一杯頑張ります。



廊下に掲示し常に胸に刻みます

### 伝統をつなぐ「花を贈る会」

三行事の締めくくりが「花を贈る会」です。これまでの 3 年生の活躍を振り返り、全校でたたえ合い、在校生からの感謝の気持ちをエールや合唱、花に込めて伝えるとともに、生徒会組織の引き上げの場として、在校生の決意を新たにする機会として 2 月に実施しています。

当日までの取り組みに力を入れ、保護者や地域の皆さんにも公開するなど、毎年盛大に行っています。この場で引き継がれた伝統が脈々と受け継がれています。



感謝の気持ちを込めて花を贈ります

## ここにある青春！ 応援団

応援団は、その名のとおり全校の応援活動のリーダーという役目の他、校舎内外でさまざまな活動をしています。

校内では、応援団の印である腕章を身に着け、朝のあいさつ運動、毎日の応援団旗の掲揚、集会時の入退場の整列指導など、生活面での全校生徒の手本となれるよう頑張っています。また、前中太鼓に取り組み、体育祭や前中祭での演奏だけではなく、地域の祭りでも演奏を披露し喜んでいただくなどの活躍も見せています。12 名の精鋭達は、一丸となって目標である「全校のリーダー意識」の実現に向けて全力で取り組んでいます。



## 学校通信 二

### 生徒会による情報モラル

「前沢中学校 ネットとのつきあい方」ネットいじめなど、情報モラルの在り方が大きな社会問題となっています。生徒会では、その事に対して真摯に向き合い「前沢中学校 ネットとのつきあい方」を決め、ネット機器を使用する際に意識することにしました。全員が意識するために、生徒総会で承認した上で取り組んでいます。

**前沢中学校 ネットとのつきあい方**

私たち前中生は、ネット機器を使用するにあたり、以下のことを意識して、よりよいネットとのつきあい方をしていきます。

- ① 人が嫌がるような言動（書き込み）はしない
- ② その日の課題や家庭学習が終わるまで使用しない
- ③ テスト前のノーメディア期間は使用しない
- ④ 使用する場合は、夜 10 時までとし、それ以降の使用を禁止とする
- ⑤ 知らない人と関わらない、話さない、追加しない、食わない
- ⑥ 自分や他の人の個人情報勝手に漏らさない

このほかにも各家庭内での独自のきまりを作り、使用するようにします。

平成 30 年 4 月 24 日（火） 前沢中学校生徒会

生母地区は、束稲山の麓で南北 7・5 キに細長く延び、自然が豊かで眺めが良く、特に月山キャンプ場から臨む焼石連峰、北上川、胆沢平野の景観は圧巻です。周辺には月山神社奥の院、座禅石、胎内石、月山松などの名所が多く、絶好の散策コースがあります。また、史跡と伝承の宝庫「あづま海道」、「古戦場跡」、「北限の磨崖仏」、「西館観音堂」など、阿弓流為と母禮に由来するものもあります。

地質学的に日本列島の土台となった最古の岩石「母体変成岩」は、大陸移動の壮大なドラマを今に伝え、生母の自然や景観に居心地の良さを感じます。

生母地区振興会は、東日本大震災直後、陸前高田市の広田地区へ「一戸一升」運動を呼び掛け、米 900 キログラムを届けました。秋には「一畝増産」運動で野菜と米を支援し、平成 29 年まで 7 年間継続。さらに復興支援奥州ネットの「協働農場」で広田地区と交流を深めています。

昨年、世界農業遺産登録申請に関わって、住民各年代の意向を探るための「中学生以上全員アンケート」を実施しました。その結果、深刻な少子化と若者の生母離れ、後継者なしによる老後の不安などの問題が浮き彫りになる一方、自然が豊かで、地域活動の意欲が高く、住民のつながり、助け合いがあるなど、肯定的な意見も多くありました。

生母げんき祭りは、今年で 10 年の節目を迎えます。芸能祭りや作品展示、軽トラ市、出店などで生母のにぎわいと元気を発信します。

10 年、20 年後の生母を展望し、生母地区活性化協議会を立ち上げ、赤生津地区と母体地区でそれぞれ活動中です。

閉校した 2 つの小学校を交互に活用して 8 月に開催する「地区民体育祭」。毎年 500 人以上が参加し、広いグラウンドで思い切り走ります。足自慢の人が多く、リレーなど大いに盛り上がります。地域の中学生がスタッフとして参加し、活性化の一助となっています。



10 月に開催する「生母げんき祭り」は、作品展、舞台発表にあわせて軽トラ市、さまざまな出店などで大変なにぎわいです。今年 10 年目を迎え、ますます盛り上がります。皆さん、ぜひお越しください！

「小正月行事交流会」は、1 月の伝統行事です。幼児からお年寄りまで、80 人を超える幅広い世代が参加し、みずき飾りやだんご汁で交流を深めます。老人クラブによる昔話、ゲームやおしゃべりなど、みんなで楽しめます。



## いいとこ、知っとこ、おうしゅう

地区センター単位で各地区を紹介します



## 生母地区

拠点 生母地区センター  
(前沢生母字羽場 69 番地 1 ☎ 2933)

### ☆輝く人☆



振興会副会長  
千葉 明美 さん  
(前沢生母字地蔵壇)

28 年 1 月から生母地区振興会の副会長として各種振興会事業に積極的に取り組み、女性ならではの視点からの射た意見で地域振興の中心となって活躍しています。

昨年実施した住民アンケートの結果を踏まえ、本年度から本格的に取り組んでいる地域活性化事業では、アドバイザーとして地域に元気を与える事業づくりに日々励んでいます。「地域の皆さんと一緒に明るく楽しく、生母の未来を考え取り組んでいきたい」と笑顔で語ってくれました。

## 放課後子ども教室

一地域の子どもは地域で育てるー 26 年からスタートした「放課後子ども教室」。本年度は参加児童 28 人（夏・冬休みは約 20 人追加）で 5 月 11 日に開校しました。大切な地域の宝を預かるのは 12 人の講師の皆さんです。子どもたちは元気の源。パワーをもらいながら日々楽しく活動しています。



昨年の「夏休みクラフトペン立て講座」